

第 2 次
飯田市中心山間地域振興計画
(素案)

計画期間 2019 年から 2028 年

2019 年 3 月策定

飯田市

第2次飯田市中山間地域振興計画 目次

第1章 第2次中山間地域振興計画の策定にあたって	1
1 飯田市における中山間地域の位置付け	
(1) 多様性に富んだ暮らしと文化が息づく飯田	
(2) 飯田市における中山間地域の魅力と役割	
2 計画策定の趣旨及び目的	
3 計画の期間	
4 計画対象エリア	
第2章 中山間地域の現状と課題	3
1 中山間地域を取り巻く現状	
(1) 人口減少・少子高齢化	
(2) 自然環境・住環境	
(3) 住民生活	
2 第1次中山間地域振興計画10年間の取組	
(1) 活性化目標の設定	
(2) 10年間の行政施策の状況	
(3) 各地域での取組の状況	
(4) 評価	
3 中山間地域の将来予想	
(1) 社会状況の変化	
(2) 人口推移	
4 地域住民を対象にした意識調査	
(1) 日常生活に関することについて	
(2) 今後の定住・移住に関することについて	
(3) 同居について	
(4) 他地域との交流等について	
(5) まちづくり委員会活動について	
5 将来にわたり持続可能な中山間地域のために	
(1) 人口減少の減り幅を最小限に留める取組	
(2) 住み続けられる環境づくり	
第3章 第2次中山間地域振興計画によりめざす方向	12
1 中山間地域振興の基本理念	
(1) 中山間地域らしい、中山間地域だからできる暮らし方を実現する	
(2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる	

- (3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める
- (4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す
- (5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む
- (6) 地域と行政が協働して取り組む

2 基本方針

- (1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり
- (2) 中山間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり
- (3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり
- (4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり
- (5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり

3 この計画によりめざす 10 年後の姿

4 飯田市の他の計画との関連

第4章 中山間地域振興計画（前期）の取組 16

1 背景

2 田舎へ還ろう戦略の取組

3 基本的な方向

4 3つのアクション

- (1) 7地区アクション
- (2) 7地区連携アクション
- (3) エリアアクション

5 前期における具体的な事業イメージ

- (1) 今住んでいる人たちの暮らし・良さを高めていく
- (2) 関係人口を増やす
- (3) 移住・定住を増やす
- (4) 中山間地域だからできる産業おこし

6 取組体系（飯田市中山間地域振興計画の体系）

7 前期における目標

第5章 中山間地域振興計画の推進 22

1 計画の推進方針

2 計画推進における役割分担

- (1) 地域及び住民の役割
- (2) 関係団体等と連携による役割
- (3) 飯田市の役割

3 前期におけるそれぞれの役割

第1章 第2次中山間地域振興計画の策定にあたって

1 飯田市における中山間地域の位置付け

(1) 多様性に富んだ暮らしと文化が息づく飯田

飯田市は、長野県の最南部に位置する人口約10万人の都市であり、周辺の町村との編入合併を繰り返しながら659km²という現在の市域を形成してきました。

南アルプスと中央アルプスに囲まれ、天竜川に沿って豊かな自然と優美な景観、四季の変化に富んだ暮らしやすい気候に恵まれています。古くは東山道、近世以降は三州街道や遠州街道などの陸運に加え天竜川の水運にも恵まれ、東西南北の交通の要衝として繁栄してきました。また、経済的・文化的にも独自の発展を遂げ、神楽や人形浄瑠璃などの民俗文化が今なお暮らしの中に息づいています。

飯田市では、この様な歴史・風土を活かした個性豊かな地域づくりが、各地区において住民自治を基盤に進められ地域の多様性が尊重されてきました。このことが、それぞれの地域で魅力的な暮らしと文化を有し、様々な暮らし方が実現可能なトータルとしての飯田市を形成しています。

一方で、全国的な人口減少の時代において、飯田市が、将来にわたり、持続可能な地域社会を実現していくためには、様々な困難な課題を解決し地域づくり・人づくりをより一層推進しながら、都市としての総合力を高めていくことが求められています。

2027年にはリニア中央新幹線が東京から名古屋間まで開業予定であり、浜松市につながる三遠南信自動車道の全線開通も見据えて、人材交流・物流が大きく変化することが期待されています。このインパクトを絶好の機会と捉え、飯田市の知名度アップ、産業振興および移住定住等の取組を進めています。

人々の価値観や求めるライフスタイルが多様化する時代にあって、足りないところを磨きながら、より多くの人々を惹きつけていくための都市としての個性も輝き続けなければなりません。

(2) 飯田市における中山間地域の魅力と役割

飯田市は、多様性のあるそれぞれの地域の魅力や役割を適正に評価し、地域力を高めることで、飯田市全体の魅力を強固なものにしなければなりません。

飯田市の中山間地域は、農地・山林を中心に市域面積の約70%を占めています。安定的な水源を確保し、自然環境を保全することにより、下流域を含む国土保全を担い、食料供給面でも貴重な産地ともなっています。また、伝統文化や景観も他の地域に見られない貴重なものです。

飯田市にとって、これらの中山間地域の資源をどのように保全、活用して活性化していくのかは、中山間地域だけの課題ではなく、飯田市全体の発展にも影響を及ぼす大きな課題といえます。

2 計画策定の趣旨及び目的

中山間地域は、地域住民の「生活の場」でもあり、人々が中山間地域で生活を営み、地域を保全し、生産活動を継続することにより、安心・安全な農林産物の供給をはじめ、森林や水田の保水機能による国土の保全や水源のかん養、さらには森林による大気浄化や地球温暖化防止等の「環境の保全」など多面的で重要な機能を担っています。

また、先人たちから伝統文化が脈々と受け継がれ、文化的な観点からも将来に引き継ぐべき大切な財産を有している地域になります。

特に今次の計画期間においてはリニア中央新幹線や三遠南信自動車道整備に伴うアクセス道路など社会状況の変化が進み、交通・流通だけではなく人の流れの変化も起きてくる時代を迎えます。

しかしその一方で、人口の減少、高齢化の急速な進行により、地域づくりの担い手不足、生活環境の悪化、地域の基幹産業である農林業の低迷などから、集落単位での活動を継続することが困難となる地域が生じる恐れがあり、厳しい局面を迎えることも危惧されます。

このような中で、住む人々が地域に誇りと愛着を抱いて心豊かに暮らし、地域外の人とのつながりを広げながら、人財を呼び込み、新たな活力を創り出し、次世代へとつながる地域をめざしていくために、第2次中山間地域振興計画を策定します。

3 計画の期間

2019年から2028年までの10年間とします。ただし、いいだ未来デザイン2028や関連する計画の改定、社会経済情勢の変化、地域づくりの進捗状況などに応じて見直します。

計画をより効率的に推進するため、計画期間の10年間を、前期・中期・後期に分け、必要に応じた見直しをかけながら進めます。

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
未来デザイン	基本目標				基本目標				基本目標			
中山間計画	—		前期（3年）			中期（4年）			後期（3年）			

4 計画対象エリア

この計画は、人口が概ね3,000人以下で、都市計画法による計画が予定されていない次の地域を対象とします。

・下久堅地区・上久堅地区・千代地区・龍江地区・三穂地区・上村地区・南信濃地区

また、三遠南信自動車道の供用開始も見込まれることから、中山間周辺地域との連携を含めた事業展開を図ります。

第2章 中山間地域の現状と課題

1 中山間地域を取り巻く現状

今回の計画策定にあたり各種統計資料や住民意識調査の結果も参考にして、飯田市における中山間地域の現状をおおむね次のとおり整理しました。

(1) 人口減少・少子高齢化

① 経験したことの少ない人口の減少・少子高齢化社会の到来

従来の右肩上がりの人口増加時代から、経験したことの少ない人口減少社会になり、中山間地域では、若年層を中心に人口が減少し高齢化も進行しています。

これに伴い、地域コミュニティの核になる保育園・小中学校においても園児、児童数の減少してきています。

② 地域活動の担い手減少

人口の減少と高齢化の進行により地域活動の担い手が不足し、中山間地域最大の特徴ともいえる伝統文化や集落行事等の地域活動を維持することが難しい状況が生まれています。

また、ライフスタイルの多様化に伴い、住民自治活動への理解や参画・協力が得られ難い事例も出てきています。

(2) 自然環境・住環境

① 農地・山林の面的管理の悪化

高齢化による農林業就業者の減少、管理者の転出などによって農地・山林の適正な管理に支障が生じ始め、耕作放棄地の増加や里山の荒廃が進んでいます。

② 自然環境の荒廃化

住民の減少、耕作放棄地の増加及び農地・里山の荒廃に加え有害鳥獣被害の拡大などにより、中山間地域の有する貴重な自然環境などの悪化が危惧されています。

③ 空き家の増加

各地域において管理されていない空き家が増加しています。これにより地域の景観だけでなく、安全性の観点からも早急な対応が必要になります。

(3) 住民生活

① 就業機会の減少

中山間地域では、農林業の衰退等によって、地域内での就業機会が減少しています。このことが地域外への転出の一因となっています。

② 生活環境機能の低下

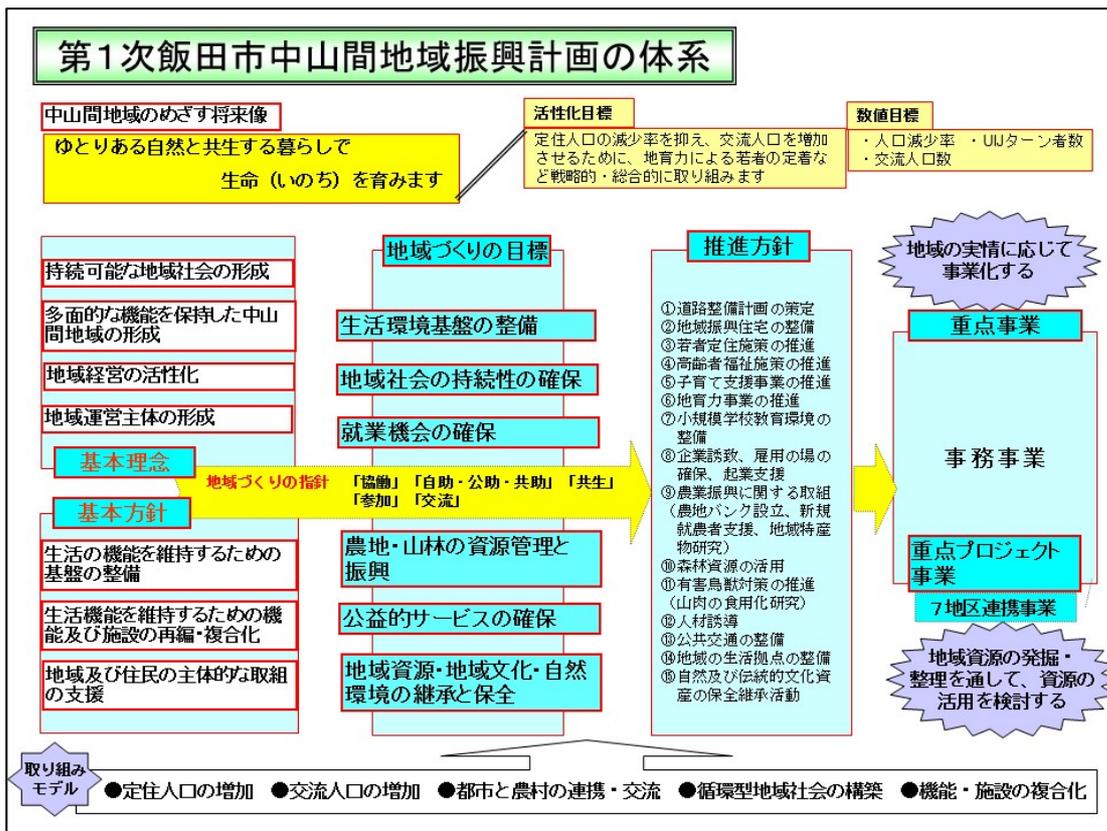
中山間地域では、地形要因などもあり、道路、上下水道、医療施設、情報サービスなどの住み続けるための重要な生活環境の整備が効果的に行えない実態があります。

③ 高齢者の移動手段の確保

高齢者の免許返納などから、高齢者世帯・独居老人世帯における移動手手段の確保といった問題が顕在化してきています。

2 第1次中山間地域振興計画 10年間の取組

第1次計画（2009年～2018年）においては、中山間地域の総合計画として位置付け、住民と行政の協働により、住民生活の向上、地域の活性化につながる取組を推進してきました。



(1) 活性化目標の設定

第一次計画においては、中山間地域の将来像を「ゆとりある自然と共生する暮らしで生命（いのち）を育みます」と定め、この将来像を実現するために、交流人口、定住人口を維持、増加させ、地育力による若者の定着などの施策を戦略的、相互的に取り組むことを目的として、活性化目標を設定しました。

○目標数値設定の考え方

ア 定住人口の数値指標

定住人口を維持し増加することを目標としました。その効果を測るため「人口減少率」と「UIターン者数」を数値指標として設定しました。

イ 交流人口の数値指標

交流人口を増加することを目標としました。その効果を測るため「体験型の交流人口数」を数値指標として設定しました。

(2) 10年間の行政施策の状況

住民生活に直結するインフラ整備（道路等）や地域振興住宅をはじめとした移住・定住対策、高齢者福祉や子育て・教育環境の充実、地域資源を活用し交流人口拡大に向けたグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムの推進など、中山間地域の総合的な取組を推進してきました。また、中山間地域連絡会の設置により地域と協働で取り組む体制づくりや、新たに地域が主体的に取り組む活動への支援を行ってきました。

(3) 各地域での取組の状況

地域住民の発想と行政の支援により、地域ごと特色ある取組をしてきました。

地域住民の声をまちづくりに反映するためのアンケート調査をはじめ、地域の魅力アップに向けた取組や、ホームページ作成による情報発信、高齢者の見守り事業、子どもへのふるさと意識の醸成や愛着を高める事業など、より住みやすい地域づくりに向けて主体的な取組が行われました。

(4) 評価

この10年間に於いて、行政だけではなく、各地区ではまちづくり委員会を中心に、より良い生活環境整備に向けた独自の取組や、移住・定住の促進、交流人口の増をめざした取組を進めてきました。しかしながら、人口減少に歯止めがかからない状況であり、交流人口についても全国的な競争の激化から頭打ちの状況が続いています。

この様な状況ではあるものの、地域資源を活用した新たな法人化の動きや、地域出身の若者が外から人を呼び込み、空き家をリノベーションする事例など、地域の潜在的な力を活かした取組が芽吹き始めています。これらの実践をさらに発展させ、中山間地域全体へ横展開を図っていくことが今後の重要な取組となってきます。

○実績

目標	目標数値	実績	備考
人口減少率 ※1	10%以内	15.74%	10年間の実績数
	1,500人以内	2,251人減	
U I J ターン数 ※2	300人	75人	10年間の実績数
交流人口数 ※3	30,000人	13,000人	最終年の実績数

※1 国勢調査は5年に一度のため推移が取れないため、住民登録数から積算。外国人登録については制度変更があったため、外国人+日本人数で再積算。

※2 飯田市キャリアデザイン室にあった相談のうち、実際に各地域に居住した実績数で集計。実際に各地域にU I J ターンした実数とは異なる。(H29実績)

※3 体験型旅行の修学旅行によるものと一般分により積算。(H29実績)

3 中山間地域の将来予想

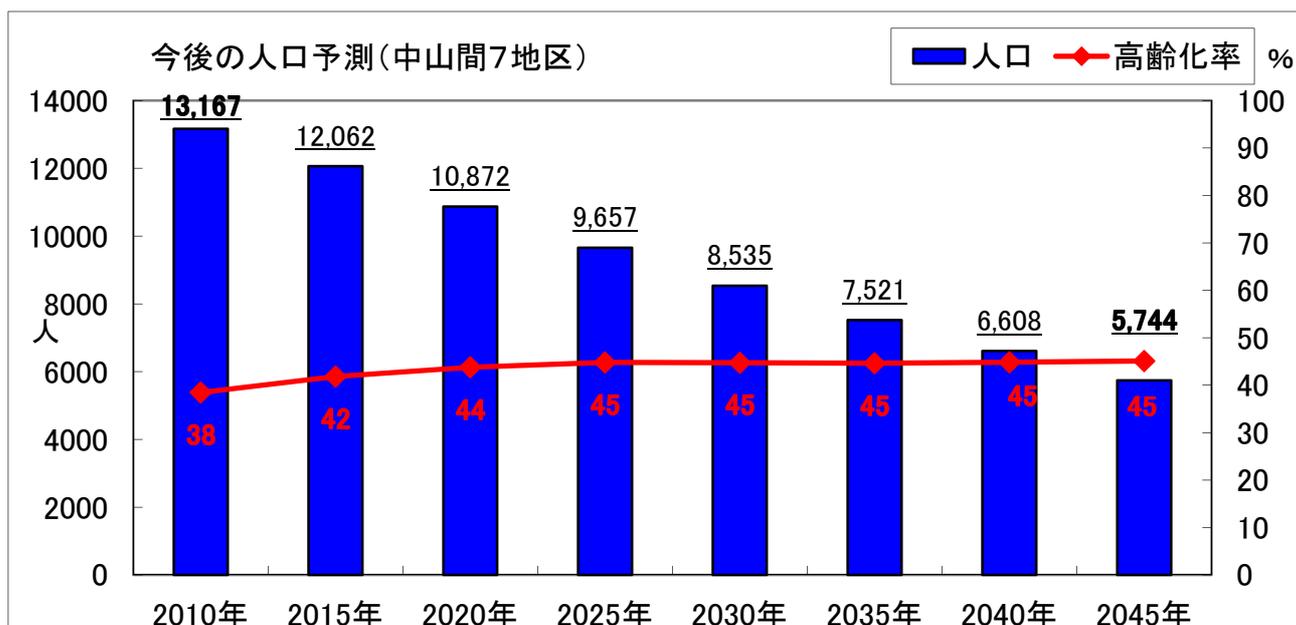
(1) 社会状況の変化

当市においては、今後、リニア中央新幹線にともなう都市部（東京・名古屋）からの人の流れの変化や、三遠南信自動車道による遠州・三河方面との交通・流通の変化が起きてきます。またこれらの交通網の整備に伴い、インター周辺（千代・龍江・上久堅）整備や周辺アクセス道の整備も行われ、これまで以上に地域の変化が生じてきています。更に三遠南信自動車道の県内部分の開通により、中山間地域7地区が結ばれることで、一帯となった地域となり、新たな地域同士のつながりや共同した取組が起きてくることが期待されます。

(2) 人口推移

社会動態の変化なども含め、今後対策を講じなかった場合、今以上に人口減少が進み、小さな集落単位では、活動が維持できなくなる可能性を秘めています。

○対策を講じなかった場合の人口予測（国勢調査による推計値）



4 地域住民を対象にした意識調査

今後の計画策定にあたっては、地域住民の意識をベースにした調査項目と関係人口構築に向けた交流への意識、及び移住・定住に関する内容について絞り込んだ調査を、今後のまちづくりを担っていく若者世代を中心とした地域住民を対象に実施しました。

○主な調査ポイント（一般・若者世代）

- ア 日常生活における満足度及び中山間振興施策について
- イ 今後の移住・定住に関すること
- ウ 同居に関する事項

エ 地域づくり等に関すること（若者のみ）

オ 他地域との交流に関すること

カ 次世代に残していきたい地域の宝

○小中学生アンケート

ア 地区の住みやすさ

イ 10年後の居住場所

ウ 地域の宝

（1）日常生活に関することについて

自然環境等から起因する生活環境の良さについては、各世代とも満足度が高くなっています。しかしながら、市政懇談会においても、延長保育や児童クラブといった子育て環境に関することや、児童数減少に伴う学校への不安、通学路をはじめとした防犯に関することなどが各地域から挙げられているように、特に若者世代において子育て・教育・防犯といった部分の満足度が低い傾向にあります。

（2）今後の定住・移住に関することについて

59.4%の皆さんは引き続き現在の地域に住みたいと考えています。しかしながら、19.3%が現時点では決めかねている状況にあります。世代別にみると若者世代に他の場所へ移りたい傾向が強く、人口減少の歯止めを行うためにも、この世代への施策展開が必要です。

いずれ他の場所へ移りたいと考えている方の多くは、経済的な理由・新たな生活に対する不安といった要因が強いと考えられます。移る先は、中山間地域外の市内といった意向が多く挙げられています。

移転した場合の土地・建物の管理については、現時点では考えていない層が多い一方で、売りたい・貸したいといった意向もあります。空いている期間が長いと改修等に要する経費負担が大きくなること、所有者不明になる事案も発生しやすくなることから、空き家になる情報を早期にキャッチし、その管理及び利活用についての意向を確認していくことが必要です。

（3）同居について

親世代との同居については、いずれ同居を考えている、近居・同居したいが手狭でできないといった回答が 42.7%を占めています。一方で同居を考えていないといった回答も 33.8%あり、将来的な空き家問題が起きる可能性を秘めています。

子世代との同居については、子世代の考えによるところが 42.9%と最も多く、子世代に同居・近居してほしいと考えている回答が 36.1%となっています。現段階で地域内に住んでいる若者世代や小中学生といった子世代における暮らしの満足度を向上させることと併せ、他地域に住んでいる地縁者を誘導できるような施策展開が必要です。

(4) 他地域との交流等について

①他地域との交流

どの世代においても他地域との交流に取り組むことが必要と考えている割合が高く、全体では65.4%となっています。

②移住者が来ることに対する受入体制について

92.5%が受け入れに対し必要性を感じています。一方で、受け入れを遠慮したいとの理由は、どのような移住者が来るか不安といったこと、今の暮らしやまとまりを壊されたくないといった地域実情の二つに分けられます。

どのような移住者に来てほしいかといった議論を地域内で行い、これらの不安を解消しながら、移住者と従来住んでいる人との良好な関係性の中で、共に地域を支えていく仲間として地域づくりを進めていくことが大切となります。

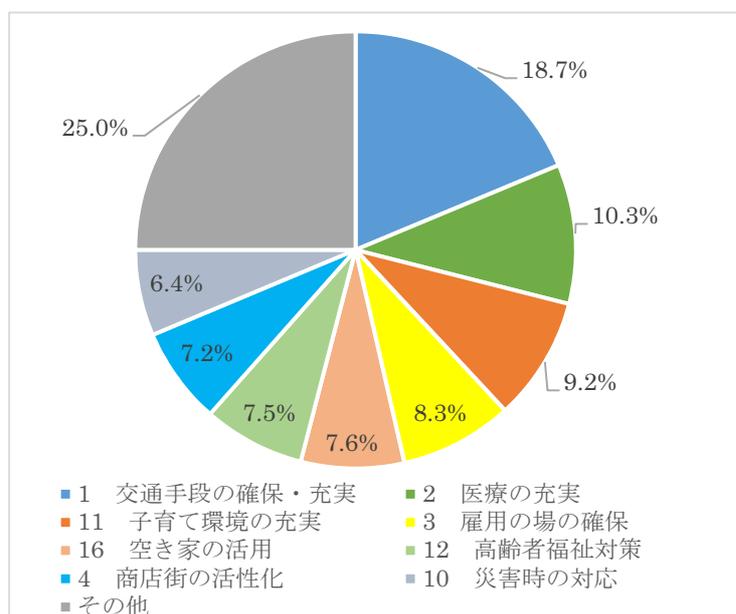
(5) まちづくり委員会活動について

若者世代からのみ回答をいただきました。参加している・していないがほぼ半数に分けられました。参加していない理由は、活動がわからないといった回答と時間的な都合によることが多く挙げられています。現在暮らしている人及び今後移住してくる人に対しても、活動内容の周知や、活動の発信の仕方について再度検討が必要です。

5 将来にわたり持続可能な中山間地域のために

中山間地域におけるアンケート調査の結果、中山間地域に望む施策として最も多く挙げられたのが、「交通手段の確保・充実」でした。地域別・年代別に見ても、15~20%と高い傾向にある状況です。次に多いのが医療、子育て、雇用と続きます。

医療、子育て、雇用とも世代ごとに上位を占めていますが、子育てに関すること、高齢者福祉に関することは、関心度の高さで年代別に上位が異なっています。



区分	割合	母数
1 交通手段の確保・充実	18.7%	589
2 医療の充実	10.3%	326
11 子育て環境の充実	9.2%	289
3 雇用の場の確保	8.3%	262
16 空き家の活用	7.6%	239
12 高齢者福祉対策	7.5%	236
4 商店街の活性化	7.2%	226
10 災害時の対応	6.4%	201
その他	25.0%	789

中山間地域は高齢化率で見ると飯田市全体の20年以上先を行っている課題先進地であり、一つひとつの課題が複雑に絡み合っています。

これらの調査結果から、地域の現状と将来に対して次の2つの課題を複眼的に見ることが必要であると考えます。

- ①人口減少、過疎化が進行する中で、個性を保持しつつ将来の地域づくりの方向性をどのように構築するか
- ②住み続けるために不可欠な生活機能をどのように維持・充実させていくか

(1) 人口減少の減り幅を最小限に留める取組

地域を持続可能なものにしていくためには、人口減少の進行を最小限に留めることが重要となってきます。

アンケート調査からも、今後も住み続けたい意向が約60%と高い比率を占めている中で、将来的に親と同居・近居を望む回答も多いことから、将来的な空き家を増やさないためにもこれらの層が住み続けたいと思えるような地域づくりと合わせ、人口を流出させないダムの施策展開が必要です。

また、他地域との交流について前向きであり、移住者の受入にも肯定的な意見が非常に多くあります。地域の人と人とのつながりといった関係性の中から移住・定住につなげ、共に地域の未来を拓く地域づくりを、これまで以上に推進していくことが必要になります。

(2) 住み続けられる環境づくり

アンケートの中から現在の暮らしに対する充実を望む声が上がっています。これら住民生活に直結する生活環境や社会基盤の整備は今後も計画的に行っていく必要があります。

それぞれの生活課題の解決に向けて、飯田市の分野別の諸々の計画を推進し、今住んでいる方々の暮らしを向上・充実させていく取組も合わせて行っていくことが重要です。

○中山間地域振興に関連する分野別計画等

【上位計画】

いいだ未来デザイン2028	「いいだ未来デザイン2028」は、地域のビジョン実現に向けて市民、地域、事業者、団体、NPO、行政など各々の立場で「飯田の未来づくり」にチャレンジしていくための指針として策定。
飯田市版総合戦略	「まち・ひと・しごと創生法」に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として策定。 リニア時代を見据え、地域に活力を生む「知の拠点」の形成と世界に誇れる飯田のライフスタイルの提案

【関連計画】

○土地利用・住まい

飯田市土地利用基本方針	市全域および各地域の将来像とその実現に向けた土地利用の方針を定めることにより、まちづくり・地域づくりの方向性を明らかにするとともに、市民と市が当市の目指すべき姿を共有して、地域の特性に応じた適正かつ合理的な土地利用を推進するための計画。
飯田市住生活基本計画	「いいだ未来デザイン 2028」や、他の関連計画との整合を図り、今後推進すべき住宅施策の体系並びに施策の方向性を示す指針となることを目的とする計画。

○高齢者の交通不安・高齢者福祉

地域健康ケア計画	健康をキーワードに他分野の事務事業に関しても関連付け、状況や地域の実態に「重点プロジェクト」を設定して、市民、地域、行政等の多様な主体により、取組を推進する計画。
高齢者福祉計画	「生涯現役」「生涯安心」をめざして、高齢者が安心して健やかに暮せるまちづくりを進めるための計画。
飯田市地域福祉計画	地域活動による支え合いや住民相互の助け合い（共助）による福祉のまちづくりを推進する計画。

○農林業の振興

飯田市農業振興ビジョン	農業・農村に係る課題を解決し、活力ある農業・農村の構築による地域活性化を図るための、農業政策の指針。
飯田市森林整備計画	市内民有林における、森林関連施策の方針や森林所有者及び森林組合等林業事業者が行なう伐採や造林等の森林施策に関する計画。

○子育て環境

子育て応援プラン	子ども・子育て支援法に基づき、「教育・保育」や「地域子ども子育て支援事業」の提供体制等の確保を図るための計画。
----------	---

○教育の充実

飯田市教育振興基本計画	飯田市教育のこれまでの取組を土台としつつ、予測困難で変化が激しいこれからの時代における教育ビジョンと、それを実現するための教育振興の方針、取組の柱（基本的な方向）を示した計画。
-------------	--

○交流・観光

飯田市観光振興ビジョン	飯田市の観光の状況を分析し、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道等新交通網時代を見据えた観光振興施策の推進を図るための計画。
-------------	---

○災害

飯田市地域防災計画	災害対策基本法に基づく飯田市の防災対策における基本計画。
-----------	------------------------------

○空き家

飯田市空家等対策計画	空き家化の予防、活用・流通の促進、管理不全対策、跡地利用の誘導等を総合的に進めるための計画。
------------	--

○遠山郷の振興

過疎地域自立促進計画	過疎地域が地域の自主性、主体性を発揮し、自らの創意工夫によって地域社会の活力あふれるものとし、真に過疎地域の自立促進に資するための計画。
------------	--

○商店街の活性化・雇用・産業振興

地域経済活性化プログラム	地域が安定的に自立運営できるよう経済自立度70%を目標に掲げて、地域産業の活性化を図るための計画。
--------------	---

○交通

南信州地域公共交通総合連携計画	南信州地域全体の公共交通における長期的な計画として、公共交通整備に対する基本的な考え方や提供するサービスの検討や実施を図るとともに、当地域の市町村間における公共交通の連携方針等を定め、圏域全体で公共交通を守り育てることを目的に策定。
-----------------	--

第3章 第2次中山間地域振興計画によりめざす方向

本計画は、中山間地域における今後の社会変化の中で、住む人々が地域に誇りと愛着を抱き、心豊かに暮らし、地域外の人とのつながりを広げながら、新たな活動を創り出し、次世代へとつながる地域をめざしていくための計画として策定します。

1 中山間地域振興の基本理念 ～将来にわたり持続可能な地域を目指して～

(1) 中山間地域らしい、中山間地域だからできる暮らし方を実現する

中山間地域には、「自然と共に生きる暮らし」「人と人が見える暮らし」など地域の特徴を活かした様々なライフスタイルが描ける場所があります。

地域の良さに気付き、それを高めあう、「ここでしかできない、ここだからできる暮らし方」の実現に向け取り組みます。

(2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる

中山間地域には美しい農村景観が保たれています。この景観は、自然が生み出しただけでなく、農地や山林を守り続けてきた先人たちの営みやそこに人々が暮らし続けてきたことにより作り出されています。その様な「景観」と「営み」の中で作られている時間をプラスした「空間」づくりを進め、次世代につなげていきます。

(3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める

住んでいる人には気づかない、外から訪れた人だから気づく地域の魅力がまだまだ隠されています。地域の強みを活かし、潜在的な力を引出し、これらを軸にした交流を進めます。

(4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す

地域は多くの人々のつながりの中で様々な活動が行われています。地域に住む人が、自らの地域を自分ごととして捉えられるには、地域に関わる部分＝「関わりしろ」を作ることが大切です。今住んでいる人、これから住む人それぞれに、地域へ関われる「関わりしろ」のある地域を目指します。

(5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む

持続可能な地域を維持していくために、住民生活に密接に関係する生活基盤や環境整備は必要不可欠な要素となります。飯田市で定めた各種計画と連携をしながら事業推進を図ります。

(6) 地域と行政が協働して取り組む

各地区の基本構想や地域づくりの目標と連動して、地域と飯田市が同じ目標に向かって地域づくりを行います。地域や住民が主体的に地域づくりを担う取組に対して、飯田市も一緒になって取り組む協働・共生によるまちづくりを進めます。

2 基本方針 ～この10年で重点的に取り組むこと～

中山間地域においては、これまで生活、産業、交流、地域資源など様々な分野に及ぶ取組が行われ一定の成果を上げてきました。しかしながら、高齢化の進行や少子化の影響による人口減少に歯止めがかからない状況です。

一方で今後リニア中央新幹線や三遠南進自動車道といった交通インフラの整備にとともに、移動時間が大幅に短縮されることにより、今までにない人の流れが生まれてくることが予想されます。

このため、人口減少の影響を最小限に留め持続可能な地域づくりに向け、今回の計画に

においては、今後 10 年間で重点的に取り組むことに特化した計画とし、地域と行政の協働により様々な事業を効果的に展開するよう努めます。

(1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり

今住んでいる人が生き生きと暮らしていることは、地域外から訪れた人にとっても「関わり」を持ちたいといった思いにつながる要素を秘めています。そこに暮らす人々が地域に誇りと愛着を持ち続けられるような環境づくりと、地域内外の人と人のつながりを高めていく取組を進めます。

また、今後も住み続けていくために必要な生活基盤・環境整備を行うとともに、地域にある生活課題の解決に向けた取組を協働して進めます。

(2) 中山間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり

中山間地域では、豊富な農山村資源を活用したグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムなどが展開され、地域内外の交流のきっかけや産業に結びつく取組が行われてきました。地域や集落の点検の中から交流の基となる暮らしを産業につなげる取組と、中山間の特色を活かしたコミュニティビジネスに結びつける取組を進めます。

(3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり

中山間地域には住んでいる人には当たり前と感じ気づいていない潜在的な力を秘めています。地域に住む人たちが、地域の魅力に気づく取組とあわせ、地域外の人に何度も訪ねてもらえるような交流を行い、関係人口を増やす取組を進めます。

(4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり

どの様な人に来てほしいかといったイメージを地域の中で共有し、その様な層をターゲットにした交流を進めていくことが大切です。また、移住者を地域づくりを共に行う仲間として受け入れる意識づくりが必要です。これらを行うために、地域ごとに移住者と今住んでいる人を結ぶ、身近に相談できる人づくりを進めます。

(5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり

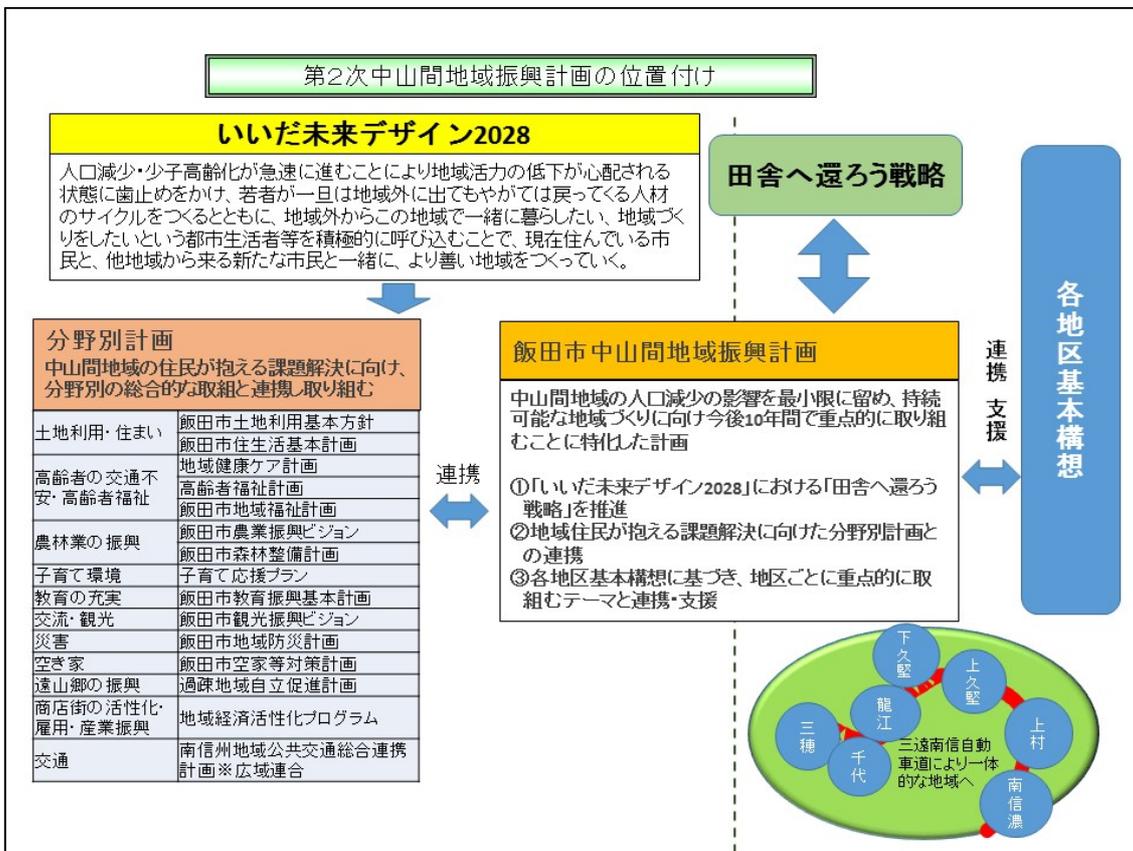
地域に住む人や地域団体、行政、地域とのつながりの中から関わりを持ってくれている方、これから関係性を共に築ける可能性のある方など、いろいろな人が参加して地域課題に向き合うことで、今までよりたくさんの方の方法を試すことができます。

歴史的にも経験したことのない人口減少社会において、可能性を拓くためのチャレンジを行う中では、様々な壁にぶつかる時もあります。これらの壁も多くの人の関わりの中で乗り越えながら、試行錯誤とチャレンジを繰り返し、次世代に地域をつなぐ取組を進めます。

3 この計画によりめざす 10 年後の姿

「住む人々が心豊かで暮らし、地域内外の人とのつながりを持てる地域」

4 飯田市の他の計画との関連



※関係人口とは

「関係人口とは、言葉のとおり『地域に関わってくれる人口』のこと。自分でお気に入りの地域に週末ごとに通ってくれたり、頻繁に通わなくても何らかの形でその地域を応援してくれるような人たち」（ソトコト編集長 指出一正氏『ぼくらは地方で幸せを見つける』）。＝「定住人口」でも「交流人口」ではない人々。

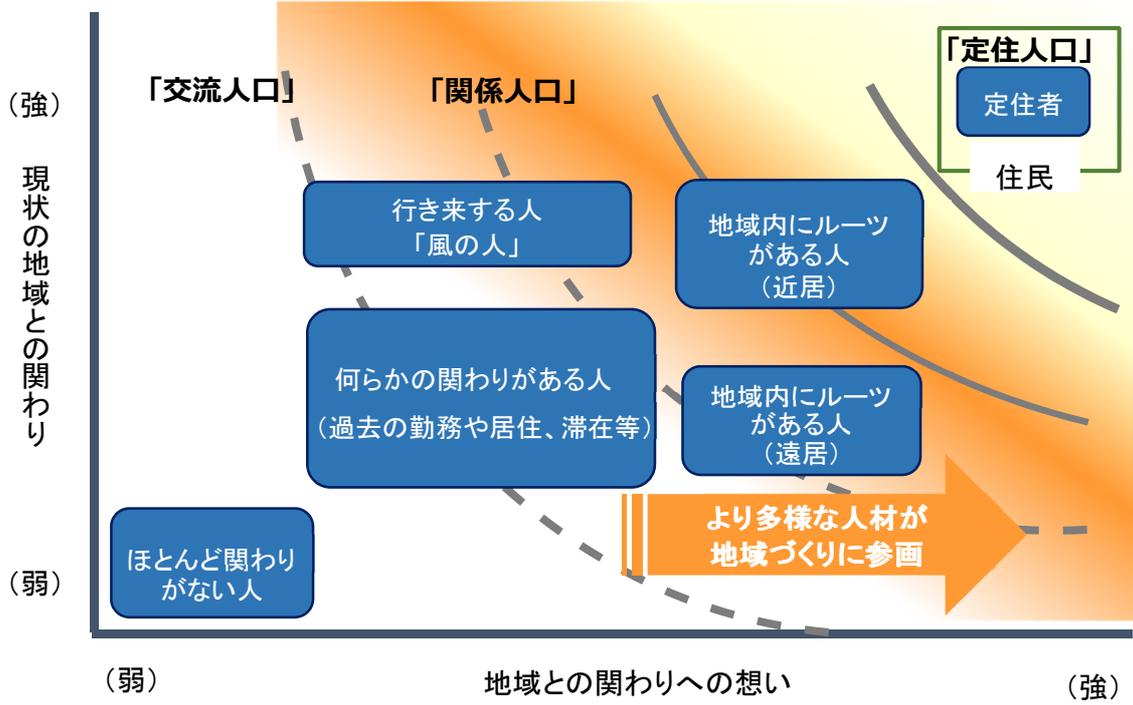
地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が、その地域の人とのつながりの中で、地域づくりの担い手となることが期待できる。

※交流人口とは

交流人口とは、その地域を訪れる（交流する）人のこと。その地域に住んでいる人、つまり「定住人口」（又は居住者・居住人口）に対する概念である。

その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、アミューズメントなど、特に内容を問わないのが一般的である。

○関係人口イメージ



第4章 中山間地域振興計画（前期）の取組

1 背景

昭和30年代後半の高度経済成長時代以降、地方から若者が流出し、都市部へ人口が集中することにより、三大都市圏の人口は総人口の半分以上を占める状況になっています。過度の集中（過密化）により、通勤ラッシュや交通渋滞、ヒートアイランド現象などの都市問題が起こる一方、地方では過疎化が進み、人口減少による労働力不足が深刻化し、高齢者の割合が増加、経済も縮小している状態が進んでいます。

全国的な移住の動向では、NPO法人ふるさと回帰支援センターの移住相談デスクやセミナーには、29年度中に33,000人超の方からの相談があり、10年間で10倍以上に増加してきています。傾向として、以前は60歳代のリタイア世代が多かったものが、近年は20～40歳代の若者世代が増加してきています。これには、2008年のリーマンショックや2011年の東日本大震災を背景として、ふるさとが欲しいという第2世代の増加があると言われています。

2 田舎へ還ろう戦略の取組

この様に都市部に人口が過度に集中してしまい、都市も地方も限界を迎えている状況化において、いかに都市と地方を良好な人口バランスに戻して、住んでいる人が幸せを実感できる社会をつくるかが国を挙げた重要課題になってきます。

当地域からすれば、人口減少・少子高齢化が急速に進むことにより地域活力の低下が心配される状態に歯止めをかけ、若者が一旦は地域外に出てもやがては戻ってくる人材のサイクルをつくるとともに、地域外からこの地域で一緒に暮らしたい、地域づくりをしたいという都市生活者等を積極的に呼び込むことで、現在住んでいる市民と、他地域から来る新たな市民と一緒に、より善い地域をつくっていくことが必要な取組となります。

市の総合計画「いいだ未来デザイン 2028」においては、これらの取組を「田舎へ還ろう戦略」として位置付け、移住・定住を含めた地域への新たな人の流れをつくる大きな柱の一つとして推進していきます。

3 基本的な方向

計画期間前期（2019～2021）においては、地域の資源を活用した地域内外の「交流」を重ね、人と人とのつながりの中で生まれる関係人口を増やし、「移住・定住」につなげていくためのきっかけとなる取組を進めます。これらを進めるために、地域づくりに関わる多くの人が集い、思いを共有し、試行錯誤と実践を繰り返しながらよりよい地域づくりを目指します。また、前期の取組を踏まえ、中期における軸となる取組を検討します。

4 3つのアクション

(1) 7地区アクション

各地区において策定されている各地区基本構想をもとに、地域資源の掘り起しと関係人口構築に向けた交流の推進、移住・定住につなげるための住民意識の醸成など、地域全体で主体的に取り組む活動を推進します。

地区名	重点的に取り組むテーマ	方法
下久堅	ひさかた和紙を活用した地域内外の交流をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・下久堅ふれあい交流館の活用 ・ひさかた和紙を軸にした交流プログラムの実践 ・交流を深めていく体制づくり
上久堅	人を呼び込む地域の土台をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策の体制構築 ・人を呼び込む観光の模索 ・地域内の情報発信の推進
千代	地域の魅力発信の強化と移住定住の体制づくり、若者からお年寄りまで元気で住み続けられるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力発信（子育て環境等）。地区ホームページのほか、ターゲットを絞った媒体・手法の活用検討 ・空き家情報と移住相談窓口の一元化。市の集落支援員制度の活用 ・地区内未婚者の成婚に繋がる取組の継続 ・現在、住んでいる人が住み続けたい（転出を減らす）、一旦、地区外に出た人が帰ってくる（Uターンを増やす）風土づくり。まちづくり委員会でできることの検討、家庭への働きかけ、地域への愛着・誇りの醸成等
龍江	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の結婚の後押し等による、新たな住民（定住人口）の増加及び地区外転出の減少を図る ・関係人口・交流人口の増加を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を含む住宅支援策の活用（地域内企業の従業員へ向けた紹介等） ・起業支援体制づくり ・婚活イベントの実施 ・「結び隊」による縁結び活動 ・世代を問わず、子どもも大人も国内外と交流を深めていく体制づくり
三穂	<ul style="list-style-type: none"> ・三穂地区最大の資源である美しい自然と農村風景を守る ・空き家の活用等居住環境の整備 ・三世代、四世代家族の継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域直接支払制度等の利用による環境整備事業の継続 ・空き家調査と家主との交渉、土地利用計画についての検討 ・小中学校での地域による教育

地区名	重点的に取り組むテーマ	方法
上村	南アルプス（しらびそ高原、下栗の里）自然体験プログラムの構築と実践	・地域おこし協力隊を導入しての自然体験プログラムの構築・実践
南信濃	遠山郷へ人を呼び込み、交流・関係人口を拡大する	・ゲストハウスやシェアハウスの活動をまちづくり委員会及び地区内で共有、連携して遠山郷ファンを増やす ・地区内のイベント、交流事業への参画 ・「遠山郷花街道」整備事業への参画

（２） 7 地区連携アクション

中山間地域が共通して抱える課題解決に向けた取組や強みを活かした取組など、これまで進めてきた1年1点型の取組を更に展開し、移住・定住策を進めます。

（３） エリアアクション

遠山郷・竜東・天龍峡エリアを軸に、既存組織等によるプロジェクト体制により各地域の資源のネットワーク化を図り、交流人口拡大に向けた事業展開を図ります。

5 前期における具体的な事業イメージ 事業化に向けた検討

前期3年間における具体的な事業は、次の4つの視点で地域と行政、関係団体など様々な皆さんとの協働により事業推進を図ります。

（１） 今住んでいる人たちの暮らし・良さを高めていく

関係人口の構築に向けては、地域住民が心豊かに生き生きと暮らしている状態が基本となります。また、地域外から訪れる人や移住者と本気で向き合える人の存在が不可欠です。このため、地区の基本構想をベースに置きながら次の2点について進めていきます。

① 人財育成

今後の中山間地域を持続可能なものにしていくための原動力(エンジン)は「人財」です。関係人口を構築していくには、地域の中に入力となる人材と支えていく人材が必要になります。このため地域の人材の掘り起しと育成を行います。

地域全体をコーディネートする人材だけでなく、外から来た人にとっては、普段の生活の中で支えてくれる人の存在が大きな要素となります。自治活動組織等の任期に捉われない、集落単位における人の関わり方の検討や、地域の意識を高めていく取組を推進します。

② 潜在的な力の掘り起し

地域の宝探しは、これまでも各地区で取組が進められています。その宝を一つの

視点で見るのではなく、違った視点で捉えると、新たな資源の発見や他の宝とつながる可能性を秘めています。

現在住んでいる皆さんが地域や集落の実態把握により特徴や個性、魅力を再確認し合うことに加え、外の視点により地域が潜在的に持つ価値を高め、点から線、線から面につなげる取組を推進します。

ア 地域資源の再発見と新たな掘り起し

地域点検、集落点検などにより資源の可視化・意識の共有

イ 外の視点との融合

外とのつながりにより、中には気づかない発想への展開

(2) 関係人口を増やす

中山間地域の暮らしには、住んでいる人から見ると当たり前になっていることが、地域外の人から見ると驚きや感動につながるものを多く秘めています。地域の潜在的な力を掘り起し、集落の何でもない所に物語を作り出すことや日常の暮らしを体感することで、関係人口を増やすきっかけにつながります。

これらを実現するためには、地域住民自ら地域や集落を様々な角度から再点検し、集落単位にその地域を語れる人材を育てることや、地域外にいる地域出身者や関わりのある方など外の視点による魅力の再発見などが必要になります。これらの外と内の気づきを融合させ、地域を軸にした人のつながりによる情報発信を行い、交流から関係人口の構築に向けた取組を進めます。

ア 魅力・暮らしの情報発信（ターゲットの絞り込みと交流プロモーション）

イ 交流から関係へつなぐため、中長期の滞在プログラムの検討・実践

ランナーズヴィレッジ等

トレッキング・ランニング・サイクリング

ウ 外部視点による中の気づきの誘発

思いの持った人をつなぐ取組

エ 中山間地域の資源のネットワーク化

エリアプロジェクトによる各地区の資源のネットワーク化と実践

(3) 移住・定住を増やす

移住・定住を進めていく上では、地域の仲間として受け入れ、寄り添いあう関係づくりが大切です。中山間地域へ移住してきた方には、自分のライフスタイル（思い）が描けている方が多く、そのライフスタイルと地域の環境（人と人とのつながりや住環境）がマッチングした時に移住している実態があります。

これらを進めていくためには、集落単位で受け入れをする気運の醸成と、中山間地域だからこそできるライフスタイルをわかりやすく発信しつなげること、移住した後

も、地域に関わる部分＝「関わりしろ」を増やすことで、移住者が地域の中に溶け込んでいく仕掛けづくりが必要です。

また、地域外へ出ている地縁者や、今住んでいる若者世代を流出させないダム的な取組と合わせ、地域との関係性の中から移住したい思いをもった方への施策展開を、今ある資源活用を行いながら進めます。

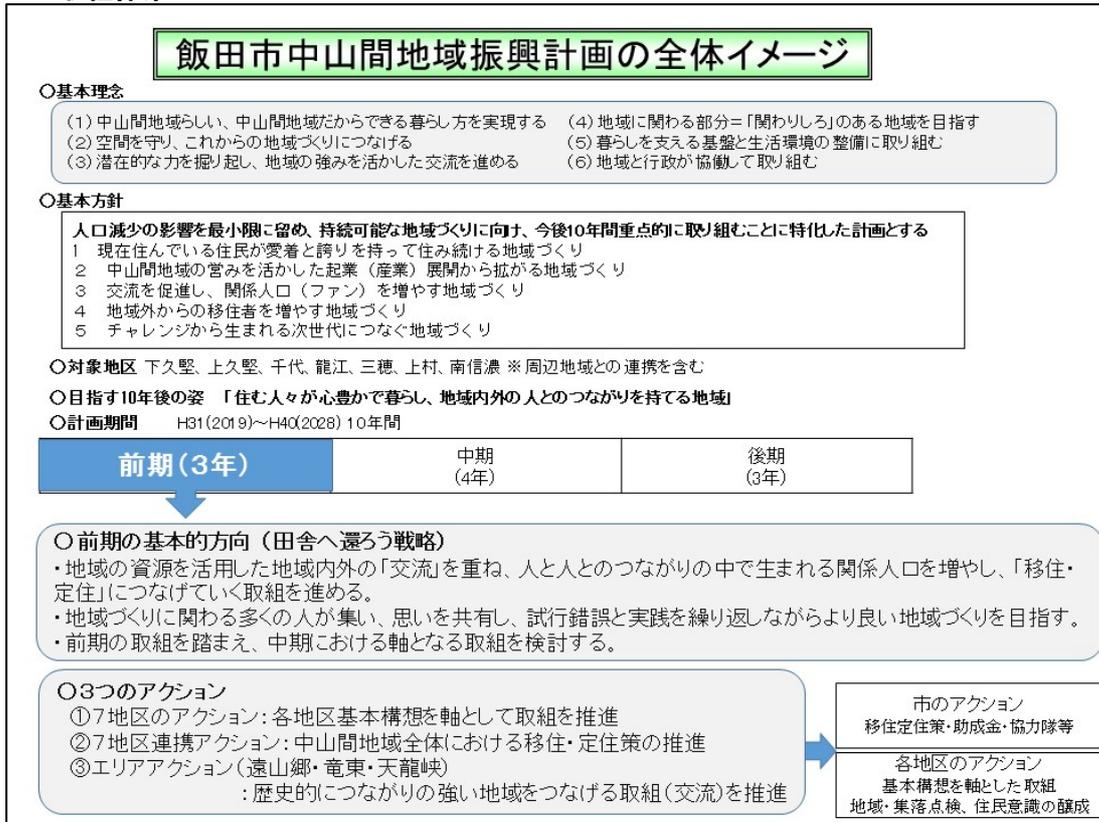
- ア 集落の点検や関わりしろの検討・実践
- イ 若者世代を流出させないダム的な住環境整備への支援と移住者への住環境整備への支援
- ウ 空き家対策

(4) 中山間地域だからできる産業おこし

中山間地域では、これまでも、これからも農業が主要な産業基盤となりますが、これに加えて豊富な農山村資源を活用した、あるいは地域課題解決のための多様な地域振興ビジネスが必要になってきます。グリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムを関係人口や移住定住人口を拡大していくための地域主体の産業に発展させていく取組や、地域の振興や課題解決につながる中山間の特色を活かしたコミュニティビジネスを起こすための人材の発掘育成や、活動支援を行います。

- ア 起業家育成
 - ・「仕事がない」から「中山間地域だからできる仕事づくり」へ
 - ・地域資源を活用した取組や、若者の思いなどを具現化する取組の一つとして、起業家を育成するプログラムの実施
 - ・農山村資源を活用したコミュニティビジネスを起こす人材育成
- イ 中山間地域らしい働き方・暮らし方
 - ・一つの仕事だけではなく、複数の仕事の組み合わせ
 - ・“従来の暮らし”を価値にした新たな産業づくり
- ウ 多様な中山間地域の資源を掛け合わせた産業づくり
 - ・農産品を活用したふるさと便等
 - ・地域の伝統文化を活用した産業おこし

6 取組体系



7 前期における目標

前期においては、関係人口の構築と移住・定住に向けた動きにつなげていくための、特に土台づくりの期間として位置付けます。このため、人口目標といった指標を用いず、それぞれの地域で展開される活動が見えるものとして次の目標を設定します。

目標名	目標値	設定の考え方
事業体数	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域においては、従来から千代しゃくなげの会をはじめとする新たな事業体の組織化が行われています。田舎へ還ろう戦略の推進においては、中山間地域を中心とする新たな事業体の取組が展開してきていることから目標として設定します。 ・新規での取組と合わせ既に立ち上がっている事業体の支援についても行っていきます。
新たな交流プログラム数	7プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業体や既存のまちづくり委員会を始めとした団体が主体となり、地域資源を活用したプログラムの構築や、テストツアーなどの実践を行います。前期はプログラム数を目標として捉え、中後期において、交流数を指標として位置付けます。

○参考指標

移住者数、社会動態（転出・転入）の動向については、参考指標として位置付け、各地区の取組に活かせるよう中山間7地区連絡会等を通じ報告していきます。

第5章 中山間地域振興計画の推進

計画の推進のためには、行政と地域、関係する団体などが協働して取り組むことが必要です。推進体制を整え、進捗管理を行います。

1 計画推進の方針

①地域の主体性を重視した取組の展開

地域の活性化のために、地域住民が主体となった創意と工夫に満ちた取組を積極的に支援します。

②地域の実情に応じた取組の展開

中山間地域は、その課題の程度や性質は地理的条件や社会的条件により異なる面があることから、地域の実態に応じた取組を推進します。

③地域の特性を活かすソフト事業の展開

中山間地域では、その固有の自然や文化等の地域資源を効果的に活用した地域住民の取組を応援・支援し、地域の魅力を活かすソフト事業を推進します。

④集落など身近な地域からの取組の展開

中山間地域における食料生産、環境、国土の保全、伝統文化の継承などの多面的な機能を維持するために、集落など住民に身近な地域社会において、集落点検の中から維持、活性化する取組を推進します。

⑤他市町村、関係団体等との連携による取組の推進

高度化、多様化する行政課題への対応や広域的視点に立った取組の必要性が高まっていることから、三遠南信地域連携ビジョンや定住自立圏構想などに基づき圏域市町村等と連携して取り組みます。また、南信州広域連合や農業協同組合、商工会議所、観光公社などの関係団体等とも連携して地域の活性化に取り組みます。

⑥総合的視点に立った取組の展開

中山間地域が抱える課題を様々な視点から統合的に捉え、それぞれの取組がより効果的に展開できるよう地域の実態に合わせ、地域と行政が一体的に取組ます。また、取組にあたっては、総合的視点に立ち各部局横断的な調整を図りながら中山間地域対策を推進します。

⑦継続的な改善と優先事業の実施

取組成果を評価、検証し、効果のある事務事業を優先して進めます。取組を検証するにあたっては、活性化に向けた地域住民の主体的な取組を誘発するよう努めます。

2 計画推進における役割分担

(1) 地域及び住民の役割

地域の実情や特性に応じた個性豊かな地域づくりを展開していくためには、地域住民が自らの住む地域に関心を持ち、地域の将来像を明らかにしながら、主体的に活動を行っていく役割が求められます。まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神により、一人

ひとりがまちづくりの主体として取り組み、互いの活動を尊重し合いながら、この活動に積極的に参加・協力していきます。

(2) 関係団体等と連携による役割

農業協同組合、商工会議所、観光公社、NPOなどの関係団体等とは、今後とも行政あるいは団体相互、住民等との連携・協力を図りながら、地域の活性化に取り組むために密接に協議していきます。

(3) 飯田市の役割

個性的で魅力ある地域づくりを推進するために、地域との協働により地域の実態を正確に把握することに努め、住民の主体的な取組の誘導や人材育成のための支援を行います。計画の推進に当たっては、まちづくり委員会をはじめ、関係団体や民間事業者といった多様な主体との連携を図りながら、具体的な活性化対策を実施します。

中山間地域振興のため、関係部局の連携を密にし、着実な事業推進を図るとともに、他の市町村との連携、協力を図りながら、広域的で効果的な地域活性化策を推進します。

また、中山間地域の活性化に関する対策や制度の充実・強化、広域的な基盤及び施設等の整備、モデル的な取組に対する実践及び支援などを国や県と連携し実施します。

3 前期におけるそれぞれの役割

1 今住んでいる人たちの暮らし・良さを高めていく

具体行動	ねらい	地域	飯田市
人財育成	・地域の担い手となる人材発掘と地域内外の人のネットワーク化	・人材の掘り起しと育成、ネットワーク化 ・地域学習	まちづくり委員会との協働
潜在的な力の掘り起し	・集落点検による地域の資源・暮らしの価値を高める。 ・外からの視点による地域の魅力再発見	集落点検からの地域の再発見活動	地域おこし協力隊の導入

2 関係人口（地域のファン）を増やす

具体行動	ねらい	地域	飯田市
①魅力・暮らしの情報発信	・暮らしの見つめなおし ・ターゲットの絞りこんだ情報発信、プロモーション	集落点検 地域内外の連携	関係部局、南信州観光公社との連携
②交流から関係へつなぐため、中長期の滞在プログラムの検討	中長期プログラムの研究・実践	ランナーズヴィレッジ トレッキング サイクリング	関係部局、南信州観光公社との連携
③外部視点による中の気づきの誘発	外の視点による魅力の掘り起し	地域の魅力の発見 メニュー化	関係部局、外部視点とのつながり
④中山間地域の資源のネットワーク化	プロジェクト体制によるエリアアクションの推進	・地域の魅力の発見 ・行政と協働したプロジェクト体制の構築	地域と協働したプロジェクト体制の構築

3 移住・定住を増やす

具体行動	ねらい	地域	飯田市
①集落の点検や関わりしるの検討・実践	・移住者のライフスタイルと地域で実践できることのマッチング	集落点検	移住者へのアプローチ、情報収集等
②若者定住	・同居・近居誘導策により地縁者を取り戻す ・移住希望者を誘導する	対象者の掘り起し 事業への関与	移住・定住に伴う住環境整備への支援
③空き家対策	空き家情報の収集と、利活用に向けたマッチング	・空き家情報の収集 ・所有者への声掛け	空き家対策支援策の拡充

4 中山間地域だからできる産業おこし

具体行動	ねらい	地域	飯田市
①起業家育成	地域資源を活用した起業家の育成	・対象者の掘り起し ・事業者への応援・協力	・起業家育成プロジェクト事業化 ・事業後のフォロー
②中山間地域らしい働き方・暮らし方	・一つの仕事だけではなく、複数の仕事の組み合わせ ・“従来の暮らし”を価値にした新たな産業づくり	集落点検	産業経済部との連携による支援

<p>③ 中山間地域の 資源を掛け合わ せた産業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産品を活用したふるさと便等 ・ 地域の伝統文化を活用した産業おこし ・ 農村起業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用資源の検討 ・ 体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業経済部との連携による支援 ・ 起業家育成プロジェクト
---	---	--	---